

2021年度
事業計画書
収支予算書

自 2021年 4月 1日

至 2022年 3月31日

一般財団法人 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS

2021年度事業計画

■ 基本方針

東京オリンピック・パラリンピックを契機に、全ての人が共に生活できる社会の実現を加速させるため、展覧会および舞台芸術公演等を開催し、これら事業の実施を通じて多様な価値観や生き方があることを伝え、それぞれの個性を祝い、支えあう社会のあり方を探り、人々の固定観念を変える契機となることに寄与することを目的として事業を行う。

■ 障害者の芸術活動に関わる展覧会の運営及び情報発信

1. 目的・目標

障害者による表現活動を展覧会、Web、紙媒体、公募事業等を通じて周知し、それをきっかけに障害者への理解を高め、より良い在り方や新たな関係性や試みを生み出し、多様な個性を祝うインクルーシブな社会の実現を目指すことを目的とする。

本事業の推進により、1)障害がある人が製作するアート作品及び「日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS」の取り組みに対する認知拡大を促進し、2)展覧会等の実施や情報発信を通じて障害福祉に関わる意識変革を推進し、3)障害がある人自身が自己の可能性を見出し、自己実現の可能性を高める一助となり、4)本年開催する東京オリンピック・パラリンピックに向け機運の醸成を図ることを目指す。

2. 事業内容

■ 企画展「日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 企画展（仮称）」事業（継続事業）

a. 企画展「日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 企画展（仮称）」

企画展『日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 展（仮称）』は、障害者と芸術文化への認知拡大や多様性の意義と価値を広く伝えることを主な目的に、2020年7月～9月の2か月間、東京オリンピック、パラリンピックの開催時期にあわせ、船の科学館（東京・お台場）で開催を予定していた。しかし、2019年末から発生した新型コロナウイルスの世界的流行により、東京オリンピック、パラリンピックが2021年に延期となったことを受けて、本企画も開催時期を延期した上で、その事業内容についても一から見直すこととし、障害福祉やアートに接点の少ない一般の若年層を主なターゲットに、非対面型の方式を中心とした多面的なイベントを開催する。全国の障害のある作家の作品や表現を活かした多彩なコンテンツを展開するとともに、広報活動による情報発信を積極的に行うことで、様々な領域

を対象とした一層の周知拡大を目指し、障害に対するイメージを変容させるムーブメントを生み出す。

b. 企画展「日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 企画展（仮称）」の準備

時 期 2021年4月～2021年7月（予定）

内 容

- ・ 方向性の策定
- ・ 出展作家と作品の選定及び新規作品の制作
- ・ 各種コンテンツ制作
- ・ 広報活動
- ・ 作品輸送・設置
- ・ その他、必要な準備

c. 企画展「日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 企画展（仮称）」の開催

会 期 2021年8月～2021年9月（予定）

場 所 オンライン及び街中（予定）

参加料 無料

主 催 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS

対 象 一般・若年層

内 容

- ・ 全国の障害のある作家や著名作家の作品展示
- ・ 音楽・ファッション・飲食・街中等に関連するコンテンツの実施
- ・ 関連イベントや交流プログラムの実施
- ・ 広報展開
- ・ その他（ショップ等）

d. 企画展「日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 企画展（仮称）」の事後業務

時 期 2021年10月～2022年3月（予定）

内 容 作品撤去・返却、報告書の作成

e. 会場の管理及び復帰

会場の使用可否を引き続き検討していることから、今後も会場の維持・管理を平行して行い、事業終了時には、平和島の美術品専用倉庫している船の科学館の所有展示物等の現状復帰を行う。

時 期 2021年4月～2022年3月（予定）

場 所 船の科学館

内 容 会場設備の維持・管理、作品及び資料の保管、会場の現状復帰

■ 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 公募展事業

a. 「第3回 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 公募展」 展覧会の開催

2020 年度に募集した作品の中から主として入選作品を展示した展覧会の開催。新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した「第2回 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 公募展」作品も展示（東京会場）。

名 称 第3回 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 公募展

主 催 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS

共 催 社会福祉法人横浜市リハビリテーション事業団（横浜会場）

協 力 国際障害者交流センター ビッグ・アイ

Bunkamura（東京会場）

展覧会アートディレクター 中津川浩章 美術家／アートディレクター

会 場 <東京会場>

会期 2021年4月3日(土)～4月18日(日)

時間 10:00～19:00

会場 Bunkamura Gallery/Wall Gallery

<横浜会場>

会期 2021年4月21日(水)～4月26日(月)

時間 9:30～18:00（25日(日)は17:00まで）

会場 障害者スポーツ文化センター 横浜ラポール

内 容 <東京会場>

- ・ 第3回 受賞作品（13点）、入賞作品（44点）、
国外佳作作品（8点）、別枠作品（6点）の展示
- 第2回 受賞作品（11点）、入賞作品（57点）、
国外佳作作品（4点）、別枠作品（11点）の展示

<横浜会場>

- ・ 第3回 受賞作品（13点）、入賞作品（44点）の展示

b. 「第4回 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 公募展」 の開催

障害のある人にアート活動の機会を提供し、有能なアーティストの発掘、支援を行い、社会に発信することを目的に、障害のある人を対象にしたアート公募展を実施。

(1) アート作品の公募

- ・ 期 間 2021年7月1日(木)～7月15日(木) ※国内外応募一斉受付
- ・ 募集内容 国内外を問わず、障害のある方が制作したアート作品で過去に受賞歴のない作品。
- ・ 応募点数 1作者につき3点以内
- ・ 出品規格 絵画、イラスト、グラフィックデザイン、書、写真、造形など。

素材やテーマは自由。

平面作品 1辺 200 cm以内、2辺合計 320 cm以内

立体作品 高さ 200 cm×幅 150 cm×奥行 150 cm 重量 50 kg以内

(2) 公募作品の審査・選考

・審査員 秋元 雄史

練馬区立美術館館長

上田 バロン

FR/LAME MONGER 代表/イラストレーター

エドワード M. ゴメズ

RAW VISION 主任編集者

中津川 浩章

美術家/アートディレクター

永野 一晃

写真家

望月 虚舟

書家

・審査方法 <一次(書類)審査>

国外は8月、国内は9月に審査員による写真審査を実施。一次(書類)審査を通過した作品は二次(現物)審査に。

<二次(現物)審査>

一次(書類)審査を通過した作品の中から、審査員立会のもと、審査員賞/海外作品賞/入賞/佳作作品等計約100点を選出。

・現物審査実施日 2021年11月6日(土)

・現物審査会場 国際障害者交流センター(ビッグ・アイ)

(3) その他

・授賞式の開催準備

・展覧会の開催準備

・図録、広報物の制作、発送

■ 情報発信事業

a. Webメディアによる情報発信

Webサイト「DIVERSITY IN THE ARTS TODAY」を運営し、実施事業の告知とともに、国内外の障害者芸術に関わる取材・ニュース記事コンテンツを継続的に公開発信し、内容の充実とユーザーの確保に努める。

日本語記事の適切な英訳を進め、海外の関心層にも日本のアート活動を紹介する。

コンテンツを整理・アーカイブ化し、Web サイトを構造的により効率の良い情報発信運用を行い、ユーザーの利便性及び集客数向上を図る。

b. ソーシャルメディアの活用

SNS (Facebook、Instagram、Twitter) とメルマガの戦略的運用とフォロワー数の増加を目指し、Web サイトへの誘導と実施事業の周知を促す。

c. 紙媒体による情報発信

Web メディア記事と連動した内容のフリーペーパー「DIVERSITY IN THE ARTS PAPER」を年2回発行し、全国への発送・配架依頼を進め、より多くの人への認知度をあげる。

主催・関連事業及び外部連携のイベント会場などで、バックナンバー含めたフリーペーパー配布と周知プロモーションを行う。

オリンピック・パラリンピック期間中のインバウンド需要に対応して、英語によるフリーペーパーを制作・発行する。

■ 多様性をテーマとした舞台芸術の活動

1. 目的・目標

パフォーミングアーツ・グループでは、2019年度より、障害・性・世代・言語・国籍などの違いを超え、誰も孤立することのない、皆が支えあう社会の実現を目指し、多様性をテーマとした舞台芸術の取り組みを行っています。2019年9月のイベントを皮切りに、ダンス、演劇、ミュージカルなど様々なイベントを通じて、上述の社会の実現に向けて、広く国内外へメッセージを伝え、活動を行ってまいりました。

しかしながら、いまま世界的に広がる新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けて、2020年4月から7月までに予定していたすべての演目をキャンセルすることとなりました。その後、協議を重ねるなかで、オンラインでも同様のメッセージを国内外に発信することの重要性や意義がある考え、オンラインでの映像・舞台作品の発表やトークイベント等を開催してまいりました。

2021年度は、引き続きオンラインでのイベント、および、感染予防を徹底しながら、国内での催しを再開することで、多様性のメッセージを広く社会に発信する舞台芸術関連事業を展開し、社会的波及効果をより一層高めたいと考えております。

さらに、各イベントでは、様々な鑑賞サポートを用意することでアクセシビリティを高め、多様な人々が参加できる場を目指します。

2. 事業内容（継続事業）

■ 多様な個性のあるアーティストとの連携による舞台芸術シリーズの実施

a. カナダ人アーティストと60代以上の一般シニアによるドキュメンタリー演劇

「True Colors DIALOGUE ～私がこれまでに体験したセックスのすべて」

- ・時期 2021年4月8日～11日
- ・場所 スパイラルホール（東京都港区）
- ・内容 セックスについてのストーリーをきっかけに、障害、性など、多様なバックグラウンドのある人生経験豊富なシニアたちが、リアルな気持ちと自らの言葉で人生を語るドキュメンタリー演劇を上演。上演中や上演後には、出演者と観客たちとの対話の場も繰り広げられます。

b. スローレーベルによるソーシャル・サーカス・パフォーマンス「True Colors CIRCUS ～tokyoo（トーキョー）虫のいい話」

- ・時期 2021年4月25日～26日
- ・場所 池袋西口公園 野外劇場グローバルリングシアター
- ・内容 横浜を拠点に活動するNPO法人スローレーベルによる、サーカス・パフォーマンス。シルク・ド・ソレイユに学び実践するソーシャル・サ

ーカスの手法を生かし、約 40 名の多様な障害者やアーティストたちとともに豊島区池袋の野外ステージにて上演。

c. **多様なモデルたちが登場するオンライン・ファッションショー「True Colors FASHION」**

- ・時期 2021 年 5 月 30 日（予定）
- ・場所 オンライン
- ・内容 「五感で感じるファッション」をテーマに、様々な障害のあるモデルや、障害をテーマにしたファッション、デバイスなどを多面的に紹介していくオンライン・ファッションショー。

d. **国内外の障害のあるアーティストらによるミュージックビデオ「You Gotta Be」の発表**

- ・時期 2021 年 6 月頃（予定）
- ・場所 オンライン
- ・内容 コロナ禍において、多様な人々のあり方を認め合い、支え合うことの大切さを音楽を通じて広めるため、国内外の障害のあるアーティストを中心にミュージックビデオを制作・オンラインにて配信する。

■ **情報発信と広報 PR の実施**

ホームページやプロモーションビデオを利用した情報発信のほか、チラシ、ポスター、インターネット、ソーシャルメディア等、さまざまな媒体を通じた広報・PR 活動を行う。

■ **障害のあるアーティストや差別や偏見をなくすため社会課題に取り組むアーティストの育成や支援を行う**

国内外のパフォーミングアーツに関わるアーティストや関連団体の調査を実施。育成や支援のプログラムを行う。

日本財団DIVERSITY IN THE ARTS 収支予算

2021年4月1日～2022年3月31日

収入の部		支出の部	
事業活動収入		事業活動支出	
1. 事業活動収入	1,627,530,699	1. 事業活動支出	1,539,040,004
基本財産運用収入			
助成金収入計	177,140,000		
障害者アート事業の推進と情報発信	123,850,000	障害者アート事業の推進と情報発信	35,359,330
障害者のアート作品を展示する公募展の開催	53,290,000	障害者のアート作品を展示する公募展の開催	53,290,000
前期繰越金収入	1,450,390,674		
企画展「日本財団DIVERSITY IN THE ARTS企画展2020(仮称)」の開催	1,076,410,626	企画展「日本財団DIVERSITY IN THE ARTS企画展2020(仮称)」の開催	1,076,410,626
多様性をテーマとした舞台芸術の活動	373,980,048	多様性をテーマとした舞台芸術の活動	373,980,048
雑収入(受取利息)	25		
2. 投資活動収入	0	2. 管理費支出	88,490,670
		3. 予備費支出	0
当期収入合計	1,627,530,699	当期支出合計	1,627,530,674
前期繰越収支差額	1,982,413	当期収支差額	25
収入合計	1,629,513,112	次期繰越収支差額	1,982,438

